

美術史ゼミ質問

1. 「ビルダーシュトゥルム（イコノクラスム）はどのように美術に影響したか、そしてプロテスタントの美術はどのようなものだったか」

近世に起こった偶像破壊運動は、中世のそれと区別して「ビルダーシュトゥルム（Beeldenstorm）」と呼ばれた。また、「グレートイコノクラスム」や「偶像破壊の嵐（Iconoclastic Fury）」とも呼ばれる。この運動はアルプス以北が主であり、プロテスタントの中でもカルヴァン派が中心となって行われた。同じプロテスタントでも、ルター派などはルターが宗教美術に寛容だったこともあり穏やかだった。

この運動の原因はカトリック信仰の強制であった。新教徒はそれに反発していく中で力をつけ、1566年にネーデルラントにおいて爆発した。教会などの公的施設が襲撃に会い、主に彫刻や祭壇が破壊されたが、絵画においてもピーテル・アールツェンなどの作品が破壊され、この時代の美術史がゆがむ原因となった。この運動は以後も続き、カーニバルのような側面もあったが、暴力の停止を条件に信仰の自由を認め、一応の終息を見せた。

美術においては、この運動の影響で北部の宗教美術はほぼ消滅し、風俗画、風景画、静物画などが中心となった。例として北方ルネサンスのデューラーやホルベイン、クラナハがいる。彼らの詳細については第九回の資料を参照されたい。また、ビルダーシュトゥルム後に反動としてカトリック美術が再収集されるようになり、この動向がバロック美術の誕生につながっていく。そして、この運動を起こしたカルヴァン派については、カルヴァン式の建築が作られたものの現在ではほぼ無名である。余談だが、後世の画家のレンブラントやゴッホもオランダ改革派と呼ばれるプロテスタント教徒であった。

"Instead there was a wave of building or adapting Calvinist "temples", though in the end none of these were to remain in use by the following year, and their layouts, which seem to have echoed early Swiss and Scottish Calvinist designs, are now largely unknown."

（カルヴァン派の“神殿”を建設、改築しようという運動はあったものの、結局は制作された翌年まで使用されたものはなかった。さらに、初期スイスやスコットランドのカルヴァン派のデザインを反映したと思われるその様式も、現在ではほとんど知られていない。）（*Beeldenstorm*, Wikipedia, 2022年4月27日, <https://en.wikipedia.org/wiki/Beeldenstorm>）

2. 「「バロック美術はルネサンス美術よりも開かれていた」とあるが、どのように開かれていたのだろうか。」

まず、スライドを訂正したく思う。参考書では、正確には「ルネサンス美術が、洗練された宮廷という閉じた世界で自足していたのに対し、バロックは外に拡張する運動性をはらんでいた」と記載されていた（宮下規久朗, 西洋美術史(美術出版ライブラ

リー 歴史編), 美術出版社, 2021)。この意味での「外に拡張する運動性」について記す。

ルネサンスとバロックは対比して語られることが多い。この文脈において必ずと言っていいほど挙げられるのはヴェルフリン「美術史の基礎概念」(1915)であり、彼は両者の造形的特性を5つの対概念によって把握しようとした。その特性とは「線的(線画的・彫塑的)ー絵画的」「平面ー深奥」「閉じられた形式ー開かれた形式」「多数性ー統一性」「明瞭性ー不明瞭性」である。造形的にはこのような特徴があるが、カトリック改革によって大衆教化の必要性が増し、その道具として絵画が用いられたことや、商業活動が活発になって市民の力が強くなり、彼らが新たなパトロンとなったことも二つの美術様式が対比されて語られる要因であるのだろう。以下では、ヴェルフリンの唱えた五つの概念について簡単な解説を加えた。

この本には、建築を含めた芸術全般について書いてあるが、ここでは絵画についてのみ記す。「線的ー絵画的」においてはデューラーとレンブラントが比較されている。ルネサンスの絵画は線画的であり、輪郭線が絵画の主役であったが、バロックは明暗こそが絵画を支配していた。「平面と深奥」について、構図についての話題である。16世紀では、遠近法が開発されたものの平面的な構図が主流であった。しかし、17世紀になると構図が深奥的になった。この様式は、ルーベンスの渦巻状に画面の奥に引き込まれる構図や、フェルメールの壁によって奥行きを明示する画面に顕著である。「閉じられた形式ー開かれた形式」について。この形式は構築的と非構築的とも言い換えられるが、これは要するに構図が厳格に幾何学的かどうかということであり、ルネサンスでは画面が中心線を囲うように配置される。しかし、バロックでは、このような均衡に対して明らかに反感を持っており、純粋なシンメトリーは存在しないか、目立たないようにしている。「多数性ー統一性」については、これには「多数的統一性と単一的統一性」という副題がついているが、ダ・ヴィンチ「最後の晩餐」のような絵画は個別の形が全体をなしていることを鑑賞者に把握させることを強いる。そのため、鑑賞者は個別要素を観察しなければ全体を把握することはできない。しかし、バロックでは複数の人物の形が溶け合い統一的な塊を成している。最後に、「明瞭性ー不明瞭性」について説明する。ルネサンスでは自然主義的にすべての事物を詳細に描き、だれがどう見ても明瞭であるような絵画を描いた。この様式は言うなれば絶対的明瞭性を持っていた。しかし、バロックは明暗対比が特徴的であるように、あえて全てを描写しないところに美を見出した。後世の印象派の様式はこの原理の上に成り立っている。

3. 参考文献

- Beeldenstorm, Wikipedia, 2022年4月3日, <https://en.wikipedia.org/wiki/Beeldenstorm>
- Protestant Culture, Wikipedia, 2022年4月27日, https://en.m.wikipedia.org/wiki/Protestant_culture

- Lutheran art, Wikipedia, 2022 年 4 月 27 日 ,
https://en.m.wikipedia.org/wiki/Lutheran_art
- Art in the Protestant Reformation and Counter-Reformation, Wikipedia, 2022 年 4 月 27 日 ,
https://en.m.wikipedia.org/wiki/Art_in_the_Protestant_Reformation_and_Counter-Reformation#
- 秋山聰, 田中正之 (監修) , 西洋美術史(美術出版ライブラリー 歴史編), 美術出版社, 2021
- ハイน์リヒ・ヴェルフリン, 海津忠雄訳, 美術史の基礎概念, 慶応義塾大学出版会, 2000
- 高階秀爾, バロックの光と闇, 小学館, 2001
- 水野千依 (編) , 芸術教養シリーズ 6 盛期ルネサンスから十九世紀末まで 西洋の芸術史 造形篇 II, 幻冬舎, 2013